学びのつながりと互恵的関係をうながす幼小連携活動の実践
―発達段階に応じた自己・他者理解と相互関係の深まり―

寺山　陽子

The Practice of Cooperative Activities to Facilitate Learning Connections and Mutually Beneficial Relationships between ECEC and Elementary Schools
-Deepening of mutual understanding and relationships according to developmental stages-

Yoko TERAYAMA

教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要

第４号 （2022年１月）

Journal of Educational Research
Center for Educational Career Enhancement

No.4（January 2022）

学びのつながりと互恵的関係をうながす幼小連携活動の実践
―発達段階に応じた自己・他者理解と相互関係の深まり―

寺　山　陽　子
（京都教育大学大学院教育学研究科 大学院生）

The Practice of Cooperative Activities to Facilitate Learning Connections and Mutually Beneficial Relationships between ECEC and Elementary Schools
－Deepening of mutual understanding and relationships according to developmental stages－

Yoko TERAYAMA

2021 年 8 月 30 日受理

抄録：幼小連携・接続の重要性は認識されてはいるが，おたがいの教育について知り，理解を深める機会を継続的に生み出すことは容易ではない現状もある。そこで，まずはおたがいを知り多様な関係を築き，互恵性のある連携活動を目指し，校区の保育所・園と既存の各教育活動の流れのなかで全園児・全児童による交流を実践した。1 年間の継続的な活動を通し，時間・空間の共有が生みだす相互作用によって双方の学びや関係性がひろがり深まるなど，幼児・児童・教職員それぞれに変容がみられた。さらに入学式での様子や 1・6 年生へのアンケート調査によって，翌年度の安心感や積極的なかかわりにつながることも明らかになった。

キーワード：幼小連携，幼小接続，連携活動，互恵性，つながり

Ⅰ．研究の背景および目的

2017 年 3 月に改訂（改定）された『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『小学校学習指導要領』すべてにおいて，「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」がよりいっそう重視され，子どもたちの発達を長期的な視点でつなぎ，連続性のあるものにしていくことが求められている。

小学校現場において，期待や意欲とともに，あらゆる環境の変化に戸惑いや不安を感じている新入児が増えていると感じる。園と同じようなことにも言葉にならない微妙な違和感を抱いていることも推測され，未知への「不安」を少しでも「安心」に変えるためにも連携・接続の重要性は実感している。一方で，それぞれのねらいや発達に応じた教育の展開があり，教育活動の流れも異なる状況で，双方の教育について知り，理解を深める機会を継続的に生み出すことは容易ではない現状もある。そこで，既存の教育活動から共通する内容を見出して交流活動へつなげることで，さまざまな相互作用によって学びや関係性が深まり，安心感にもつながると考えられる。

交流活動を軸に幼小連携の発展をはかるにあたり，住野(2006)は，既存の教育活動から内容面・活動面で共有できるものを抽出して活動を位置づけることで新しい成果をもたらすことを明らかにし，異年齢交流がもたらす多様な教育的効果から，5 歳児と 1 年生以外の交流の検討やさまざまな学年の教員が参加する幼小連携委員会等の組織編成の必要性についても言及している。そして，物理的な距離以上に大きく影響する幼小連携の課題として精神的な距離感をあげ，「両者をつなぐ架け橋になる人物」がいることで幼小連携は進むとも述べている。[1] また齋藤(2008)は，児童は幼児の世話や指導ではなく，いっしょに同じ活動を楽しむことでイメージを共有してふくらませ共感性を高めていくことが重要であるとし，連携教育実践を通して育まれる力として「他者を理解する」「他者との関わりや生活・遊び・文化に価値を見いだす」「人間関係を創り調整する」「自己をみつめる」「客観的にものごとをみつめる」「表現する」力をあげている。[2] 子どもの交流によって教職員間の子ども理解が進んでいるとはいえない現状については善野(2015)も言及し，「教育課程に位置づけ，無理なく意味のある実践を日常的に設定するなかで，幼小双方の呼応関係と継続した互恵関係が構築されていく」と述べている。[3] また数馬ら(2018)は，小学校側が計画を作成した場合，幼児にとっても意義あるものにするために事前・事後の意思疎通の

必要性を述べる一方で，その時間確保や長期的視点をもった交流のありかたの検討を課題としてあげている。[4)]

連携を進めるにあたっては，普段の教育活動の自然な流れのなかですべての幼児・児童がかかわる活動の継続が大切であり，その過程において幼小の独自性のなかに共通する子どもの姿・ねらいや多様なつながりがみえてくると考える。そして，おたがいの教育についての理解が深まるにつれ，子どもたちの育ちや学びがより連続性のあるものとなるとともに教育の視点もひろがり，連携活動やそれぞれの教育活動のさらなる充実が期待される。

本研究において，まずは，小学校全学年における教科等の学習と幼児期の生活・あそびを通した学びのつながりを生かした互恵的な幼小連携活動の実践・充実を目指し，実践記録や児童・教職員のふりかえりから，互恵性を生みだす環境・活動内容や多様なつながりについて明らかにしたい。また，特に継続的に交流を重ねた 5 歳児と 5 年生について，入学式での様子やアンケート調査により，翌年度にもたらす効果についても明らかにしたい。

Ⅱ．“つながり”と“互恵性”を大切にした幼小連携活動の実践 (2019 年度)

1. 実践の概要

2019 年度，勤務する小学校で幼小連携を担当し，4 月に前年度の活動を見直し，全学年の教育課程に幼小のつながりを見いだして無理ない活動を考案，校区の保育所・園と日程を調整して年間計画〔表 1〕をたてた（Plan）。

実施にあたり，学び・人・場所などさまざまな“つながり”を通して多様な相互作用が生まれ，双方の学びや関係性がひろがり深まっていくように“互恵性”を意識した。それらを各教職員が感じることで連携への意識が高まっていくように，負担感の軽減によって気もちの余裕を生みだすことも考慮し，各活動の計画・連絡・調整・準備等は筆者がコーディネーター的存在となって進めた。

〔表 1〕連携活動年間計画

学年	実施時期	交流内容　※【　】交流場所	交流児・所園
1年	2学期（12月19日）	【小】リレーあそび（体育）	5歳児（A施設）
	3学期（1月17日）	【小】もうすぐ1年生体験入学[学習交流]（国語/生活/音楽）	5歳児（A・B・C施設）
2年	1学期（5月16日）	【保】やごのプレゼント（生活）	5歳児（A施設）
	2学期（11月20日）	【小】おもちゃランド（生活・図工）	4歳児（A・C施設）
	3学期（3月中旬）	~~【保】紙しばいをしよう（国語）~~→中止	5・4・3歳児（A施設）
3年	2学期（11月8日）	【保】花笠音頭発表[redacted]祭の前]（体育）	5・4・3歳児（A施設）
4年	3学期（2月13日）	【小】校内図工展見学説明案内（図工）	4歳児（B・C施設）
5年	1学期（7月16日）	【小】交流用名札作り（家庭）	5歳児（A・B・C施設）
	2学期（8月29日）	【小】夏休み作品展見学案内（図工）	5歳児（A・B・C施設）
	2学期（10月31日）	【小】もうすぐ1年生体験入学[給食交流]（特活）	5歳児（A・B・C施設）
	2学期（12月16日）	【保】クリスマス交流（家庭）	全園児（A施設）
	後期（10月～2月）	【小】中間交流あそび（2・3h保育所図書室利用時）	5歳児（A施設）
6年	1学期（7月12日）	【小】洗濯実習&PC体験（家庭）	4歳児（A・C施設）
	2学期（12月13・18日）	【保】クリスマス交流（家庭）	全園児（B・C施設）
	3学期（2月頃）	~~【小】12歳のハローワーク[保育所の先生のお話]~~→中止	保育士（A施設）
	後期（10月～1月）	【保】12歳のハローワーク[園庭遊び]（中間休み）	5・4・3歳児（A施設）

【行事など】　☆児童・幼児　★教職員　※学びの環境の共有
☆運動会（7月1日　中間休み）[A施設]　★夏休み作品展⇒所園職員の見学（自由）
☆運動会リハーサル・運動会当日見学（自由　※要事前連絡）　★小学校参観日⇒所園職員の参観（自由）
☆マラソン大会応援（自由　※要事前連絡）　★夏休み⇒小学校から所園に参観・体験など（希望者）[A施設]
☆6年生を送る会リハーサル見学（自由　※要事前連絡）　★5歳児保護者懇談会⇒小学校入学に向けて小学校よりお話[B施設]
☆室内レクリエーションクラブ⇒昔あそび交流（1月27日・2月17日）[A施設]　☆ベルマーク・使用済インク回収→小学校へ持参
※せみとり（夏休み）　※たこあげ（冬休み）　※落ち葉・木の実拾い　※畑の野菜の観察　※運動場・図書室等の使用（要事前連絡）

各活動の数週間前には，ねらい・内容・流れをまとめ，ふりかえり用紙をつけて各園に持参，数日前に電話確認し，事前に幼小のねらいを明確に共有した。当日は双方の子どもたちの主体性を尊重しながら担任の進行で進め（Do），実施後はエピソードと写真を校内に掲示，1 週間後を目安に各園を訪ねてふりかえり用紙をうけとって児童の感想とともにまとめ，掲示物等もそえて各園に届けた。活動ごとに省察（Reflect）して計画を見直し，次に生かすように（Act），独自の PD「R」A サイクルを大切にしながら互恵的な連携のありかたを探っていった。

2. 実践記録　　※＜　＞：小学校教科等／〔　　〕：交流場所

活動を重ねるにつれて，交流に参加していない教職員もふくめ，幼小ともに「感想を読んで，思っていた以上に児童が深く感じ考えていることを知り，連携への意識が変わった」「交流の大切さ，より有意義な交流にするためにねらいを教職員でしっかり共有しておく大切さを改めて感じた」などの声が増えた。具体的な実践内容や育まれる子どもの姿のイメージがわきにくかった教職員も，実際の様子や校内掲示・感想から連携活動がもたらす効果をそれぞれの視点で感じ，「これなら無理なくできそう」「来年度もやってみよう」などの声もきかれた。

そこで，ここでは，活動内容や子どもたちの姿の具体的イメージにつながるように，校内掲示・児童の感想・教職員のふりかえりをもとに，できるだけそのままの表現を用い，実践記録として実施した順に示すこととする。

(1)【5 月】感激！やごのプレゼント（2 年生と 5 歳児）＜生活＞　〔A保育所〕

2 年生がプールでの「やごとり」を隣接保育所といっしょにしようという話になったが，日程があわず，代表児童がやごを届けることになった。保育所に入ると目を輝かせて集まってきた 5 歳児に囲まれて戸惑う 2 年生に，「えさは何」「水はどうかえるの」と質問が次々とんできた。予想外の展開にもかかわらず，知識や経験をもとに注意点なども説明し，「わからないことがあったら聞きにきてね」と伝えていた。その後も気にかけ，トンボになったことを知ると「えっ本当」と満足そうな表情をうかべて喜んでいた。

直接的なやりとりがあったからこそ，幼児の生き物への関心や，その後も 2 年生が気にかける姿につながった。

(2)【7月】夢中！選書会（5歳児）　〔小学校〕

毎年恒例の全校選書会，隣接保育所に声をかけると，小学校や本への興味を抱いて5歳児がやってきた。自ら靴をそろえて体育館に入り，いっぱいに並んだ本を手にとると，「みてみて，すごいよ」「ぼく，これ好き」「ここ何と書いてあるの」と教職員にも話しかけていた。「また小学校に来たい」の声に「今度ここで5年生と名札をつくるよ」と伝えると，「やったぁ」「何回寝たら」と期待をふくらませていた。

まずは幼児も大すきな本を通して小学校という場とつながり，また小学校に来るという期待感へとつながった。

(3)【7月】興奮！洗濯＆ＰＣ体験（6年生と4歳児）＜家庭＞　〔小学校〕

家庭科の学習でたらいと洗濯板での洗濯実習を行った。そこで「せんたくごっこ」「あわあそび」とつなげ，いっしょに洗濯をした。ひとつの活動への集中が持続しにくい4歳児の発達段階から，前半後半とわけてＰＣ体験（もぐらたたき・お絵かきなど）と交代で実施した。6年生はよごれを落とすコツを4歳児の反応をみながら伝え，あとはいっしょに「あわあそび」に夢中になった。かき回すとみるみるできる泡の山にともに大興奮ですっかりうちとけ，校門を出る4歳児から「楽しかったぁ」という声がきこえた。

4歳児に頼られ，たくさん話をきき，圧倒され戸惑いながらもよりそって接し，「疲れた」と言う6年生の表情は充実感に満ちており，保育士の仕事の大変さとともにやりがいも感じるなど，キャリア教育にもつながった。

6年生のふりかえり
- ○幼児さんの笑顔をみて自分たちも笑顔になった。この子たちがどのような小学生になるのか楽しみ。
- ○いろいろな子がいて大変だけれど笑顔がたくさんみられ，保育士はいい仕事だな。
- ○4人で2人をみても大変だったのに，保育士さんは毎日こんなに大変なお仕事をされていて，とてもすごいと思う。わたしも，いつかこんな子育てをできるようにがんばりたい。

幼児教育施設より
- ☆今までに一度もしたことのない交流は新鮮だった。
- ☆6年生がとても穏やかで，不安がすぐに笑顔に変わった。
- ☆戻って「せんたくかあちゃん」の絵本を読むと，「今日やったやつや！」と嬉しそうに言っていた。

(4)【7月】満足！名札作り（5年生と5歳児）＜家庭＞　〔小学校〕

家庭科の裁縫の学習でフェルトで名札をつくった。そして5歳児の「ぬいものあそび」とつなげ，おそろいの名札をつくることにした。ひとりで作るときとは異なる難しさを感じながらも学びをもとに伝え方を工夫し，5歳児の気もちを尊重しながら進め，完成すると自信と満足の表情をみせあった。全員が完成できるように余裕をもって時間設定し，短時間単位で活動に変化や動きをもたせるように休み時間はペアの5歳児の希望をきいて校内で自由にすごす時間としたことで，おたがいの距離がぐんと縮まった。

学校生活の自然な流れのなかでの自由なひとときが，それぞれにとって有意義で効果的な時間となった。また，5年生にとって，高学年としての自覚の芽生えや次回への交流活動への意欲にもつながった。

5年生のふりかえり
- ○幼児さんも自分たちも，自然と笑顔になった。
- ○教えることは難しかったが，完成したら喜んでくれて，達成感があったようでよかった。
- ○ペアの子のことをもっと知るために，もっと質問しようと思った。

幼児教育施設より
- ☆5年生のことばかけがやさしく，ほめることも上手で，想像以上にいっしょにしようとしてくれていて，子どもたちもあきることなく楽しそうだった。
- ☆休み時間や作業後に校庭や教室などで自由にすごす時間があり，そこでぐっと親しくなってよかった。
- ☆園ではいちばん上なので，小学生にやさしくしてもらっている姿は新鮮だった。この経験は，園で下の子にやさしくするということにつながると思う。

(5)【7月】発見！保育所参観・体験（教職員）　〔A保育所〕

教職員もまずはおたがいの様子を「みる」「知る」ことから…夏休みに隣接保育所で「あそび」と「生活」で大切にしていることについて話をきき，0歳児～5歳児の保育の様子を自由に参観した。実際にみることで，小学校にもつながる視点や生かすことができる視点など新たな気づきがあった。

このような機会を無理なく重ねていくように，その後，小学校の参観日や行事等の案内を積極的におこない，小学校の様子も短時間でも気軽にみることができる機会を増やすことにつながった。

教職員の感想
- ★実際に様子をみることは，子どもたちにとっても教職員にとっても「つなぎ」という意味で価値があると思った。小学校へつながっていく部分や，小学校でも引き続き大切にしていかなければならないことも考えさせられた。
- ★就学前の様子を発達段階ごとに見学できたことは，大変貴重な経験になった。来年度入学してくる子どもの様子や対応をみることで，このように対応するとうまくいくのではないかということがイメージできた。
- ★いろいろな活動や経験をさせながら，多くのことを学ばせているのだということがよく伝わってきた。遊びのなかに学習の要素がたくさんつまった保育を通しての教育方法を生かしながら，小学校での教育を進めていきたい。
- ★「こうして育ててくださってありがとうございます」という気もちになった。頻繁には難しいが，他園も含め，もっと様子や視点を直接きかせていただくなど知る機会があり，大人だけでも気軽に話ができる関係であるといいと思った。
- ★ねらいがあり，それを達成するためにしっかりと準備され，勉強になった。継続的に何回か訪ねることで，幼児にとっても小学校の先生が「知っている先生」になり，1年生になったときの安心につながると思った。

幼児教育施設より
- ☆小学校はイメージしやすいが，保育所はみえにくいし施設によってさまざまなので，隣接していることでおたがいに交流しようという意識をもつだけで改革だと思う。
- ☆プールの様子をみて「約束が守られている」という感想と，「え，当然ですよ」「約束を守ってもらわないと危なくてしていられません」という保育所側との差があって，このようなことが少しずつうまっていくだけでも価値があるように思った。

(6)【8月】笑顔！夏休み作品展見学（5年生と5歳児）＜図工＞　〔小学校〕

夏休み明け，おそろいの名札をつけて再会するとおたがいが自然と笑顔になった。そして小学生が夏休みに取り組んだ研究や作品が並んだ体育館に入ると，5歳児は驚き・感動・真剣・夢中・輝き・笑顔…豊かな表情をみせながら前回と同じペアの5年生と見学した。「こっちこっち」「これ何」

と５歳児からも多く話しかけ，５年生は前回をふまえて接しかたを工夫して和やかな雰囲気でかかわり，５歳児の反応や様子の変化から気もちがつながるよろこびを実感すると，次回を楽しみにイメージをふくらませていた。

相手について知り，関係が深まっていくことで，おたがいに「相手のことをもっと知りたい」「もっとかかわりたい」という気もちにつながった。また，「名札」をつけることが，５歳児にとって「小学校に行く」という高揚感を高め，園と小学校，子どもたちをつなぐひとつのきっかけとなっていた。

５年生のふりかえり

○楽しかったけれどすごく疲れたので，保育士さんはこんなにたくさんの幼児さんをまとめたりあやしたりと，すごいと思った。
○前よりも自分から積極的にかかわることができて，ペアの子も前より心をひらいてくれたので，とてもうれしかった。
○幼児さんは前よりたくさん笑顔をみせてくれて，とても元気をもらった。自分たちまで自然と笑顔になった。幸せだった。
○幼児さんはもの知りで，わたしが知らなかったこともあって，一緒にいてとても楽しくなった。ありがとう。
○最後に，「次はいつ交流するんかなぁ」と言っていたので，何だか心がほっとした。また，あたたかい心で幼児さんと会いたい。
○２回目で前より緊張せず，一緒に行動することにも慣れてきた。はじめはあんなに不安だったのに，今は反対にすごくわくわくがあふれている。
○前より心がつながり，交流を通して心の距離は近くなっていくと感じた。最後まで自分のなかで思いやりは115％はこえていたと思う。
○ルールをしっかり守り，作品の構造を考えながらみていて，もう小学校にいても大丈夫，１年生になっても大丈夫だと思った。
○来年こんな子が入学してくると思い，「学校はこんなに楽しいところなんだ」「早く行きたい」と思ってもらえるようにしたい。
○もっと詳しく小学校のことを教えて，学校が好きになってもらいたい。１年生になると楽しいことがいっぱいだから，早く１年生になってほしい。６年生で１年生とかかわるとき，しっかり声をかけられるようにしたい。

幼児教育施設より

☆小学校に行くことをすごく楽しみにしていて，前のペアでの交流を喜んでいた。
☆前回があって今回ということがつながっていると感じられた。
☆５年生が５歳児の気もちをくんでくれ，ペースに合わせてかかわってくれ，本当にやさしかった。
☆園に戻ってからも，気にいった作品のつくりかたを知りたいと言っていた。
☆毎回，無理なく交流できているのでありがたい。

（7）【10月】安心！もうすぐ１年生体験入学（５年生と５歳児）＜特活＞　〔小学校〕

５年生が待つ体育館に，「ごはん，ごはん」と声をはずませながら５歳児が給食体験にやってきた。おたがいにペアをみつけると自然と近づいて手をつなぎ，交流がスタートした。「これどうするの」「これおいしい」「○○して」「□□がしたい」など５歳児からも気軽に話しかけながら，小学校給食の雰囲気を楽しんだ。昼休みは生き生きと自由にすごす姿は，小学校で何年もいっしょにすごしていると感じさせるほど自然だった。小学校での同じ時間や空間を満喫し，「次いつ会える」「次は○○しよう」「来年が楽しみ」と会話しながら記念写真をとり，小学校生活への期待，最高学年への気合いをそれぞれ高めていた。

幼児から希望を伝える場面が増えたことで，「この声かけでよいのか」「楽しんでいるのか」と不安もあった５年生にとっての安心や自信にもつながった。さらに，ペアの関係が深まるにつれ，他のペアや異なる幼児教育施設の幼児どうしがかかわる姿がみられるようになり，さらなる関係のひろがりと深まりが期待された。

５年生のふりかえり

○早く１年生になりたいと思った子が増えたと思うので，次は最高学年としてみてあげたい。「また１年生として楽しく来てね」という気もちでいっぱい。
○ペアの子は，「どうして？」「なんで？」とたくさん質問してくれて，理由をつけて話すと納得してくれるので，しっかり教えてあげたいと思った。
○ひさしぶりに会っても覚えてくれていて，わたしも楽しくてうれしかった。幼児さんのすごいところや好きなことなど新しいことがわかり，自分でできることもたくさんあって，自分も頑張らないとと思った。
○最初は何も話してくれなかったけれど，外でいっしょにあそんだことで，「名前もう１回教えて」と積極的に話してくれるようになった。
○今まではわたしばかり質問していたけれど，ペアの子からも質問してくれた。
○手をつないだときに，心もつながったように感じた。とてもなついてくれていて，毎回会うことをとても楽しみにしている。
○前回は保育士の仕事は大変だと思ったが，それだけでないよい面もあると思った。

幼児教育施設より

☆継続的に交流しているので，自然なかんじで小学校になじんですごしていた。
☆何日かたってからも，学校の給食について友達どうしで話していた。
☆先にあそび交流があり，関係ができている状態での給食交流の流れがよかった。
☆今までの交流がつながっていると感じる。５年生が気もちを向けてよりそい，言葉をかけてくれていると感じる姿が多々あり，よい交流・経験となっている。
☆給食体験に＋αで前後の楽しい活動があり，しかも個々の興味やしたいことを尊重してもらえる幅もあるので，幼児も無理なく期待をもって参加している。
☆５年生との関係がより親密になってきて，小学校にはどんな場所があるのかもわかってきて，具体的にどんなことをしたいか，自分の気もちを言えるようになっている姿からも，今までと今日の姿がつながっていると感じる。
☆今年は特に密でゆるく自由度の高い交流がなんといってもすばらしい。決められた画一的ではない子どもの動きのなかに子どもの心の動きがあって，これこそが交流だと，５年生の感想からも感じる。

（8）【11月】気合！花笠音頭発表（３年生と全園児）＜体育＞　〔Ａ保育所〕

地域の祭りへの出演をひかえ，隣接保育所で「花笠音頭」を披露した。全園児の期待に満ちた視線に圧倒されながらも，運動会よりレベルアップした迫力ある演技で最後は乳幼児たちをを圧倒させ，ほどよい緊張感のもとでよいリハーサルとなった。「○○のところがすごかった／かっこよかった」などの感想に表情がゆるんだ３年生は幼児と玉入れを本気で楽しみ，タッチを交わす表情はすっかり笑顔に変わり，「お祭りがんばってね」という声に「よかったらみにきてね」と，自信と気合いを高めて園庭をあとにした。

例年は小学校で披露していたが，小学校での交流となると機会も少なくなりがちな乳児とも同じ時間・空間を共有するよい機会と考え，園庭での披露を提案したところ考えが一致，ねらいや内容に応じて気軽に行き来して実施できる活動を増やすきっかけとなった。また，園の運動会種目からいっしょにできるものを相談して決めた玉入れは保育士が中心となって進め，普段の保育の進めかたや声かけなど小学校でも参考になる視点も多かった。

３年生のふりかえり

○３歳児でもしっかり感想を言ってくれて，すごいなと思った。「かっこよかった」とか「すごかった」とか言ってくれたから，すごく気合いが入った。本番でも全力を出しきって，たくさんの人にみてもらいたい。
○わたしたちのことを目を離さずにじっとみてくれている様子をみて，「あぁ，こんなに集中してみてくれているなんて…」と思いながらおどっていた。みんなにみせて自信がついたから，すごく感謝しているよ。
○タッチをしたとき，手も小さく，みんなすごくかわいかった。笑顔いっぱいの幼児さんたちの顔をみることができてうれしかった。
○みんな明るい子どもで，ぼくもこの保育所に通っていたけれど，保育所の先生方のおかげかなぁと思った。

幼児教育施設より

☆いつもは行くので４・５歳児しかできないことが多いが，来てくれるということで小さいクラスもおどりがみたい！とお散歩から帰ってきて楽しみにしていた。
☆「ほんもの」を「生で」みることに価値があるので，いろいろと感じることができたことが何よりだった。
☆あまり整った交流でなくても保育所は構わないので，何度かくりかえして継続的な交流ができるといいと思っている。

（9）【11 月】歓声！おもちゃランド（2 年生と 4 歳児）＜生活・図工＞　〔小学校〕

2 年生が幼児が喜ぶ姿を想像しながらコーナーを考えて「おもちゃランド」を開き，これまで 5 歳児をうらやましそうに見送っていた 4 歳児は期待をふくらませて小学校の門をくぐった。目線をあわせて声をかける案内担当と元気いっぱいの呼びこみで盛りあげるコーナー担当の 2 年生の笑顔とサポートに，「あっち行きたい」「これ楽しいね」と，会話は何往復も続いた。そして，「もう全部楽しかった」と言いながら小学校をあとにする 4 歳児に，その距離を埋めるように「小学生になったらいっしょに遊ぼうね」と 2 年生の声が大きくなり，おもわず後を追って門までかけより，最後の最後まで手をふりながら見送っていた。

初対面でも年齢が近いからこそ，でも 2 年生が少しお兄さん・お姉さんだからこその自然でほどよい距離感で，自分のコーナーに行ってほしいけれど 4 歳児の希望を最優先するなど，普段とはまた異なる姿も多くみられた。

2 年生のふりかえり

○今日はありがとう。１年生になったら，いろいろなことを教えてあげたい。
○ドキドキしていた姿もだんだんなくなってきて，楽しかったと思う。ペアの子の笑顔をみるだけで楽しかった。
○みんなが笑顔になるおもちゃを作ったから，みんなが笑顔になってよかった。やっぱりがんばって作ったかいがあった。
○２年生全員の力で作ったおもちゃは楽しかったかな？おもしろいおもちゃがあったら，家でも作ってみてね。
○またあそぼうね。わたしはいつでも小学校で待っています！
○来年小学校でわからないことがあったら教えてあげるから何でもきいてね。１年生になったらまた会おうね。みんなが来ることを待っているよ。
○ぼくの家は保育園の近くだから，みかけたら「お～い！」って大きな声でさけんでね。そうしたら気づくからね。

幼児教育施設より

☆普段は自分から声をかけるにはすごく時間がかかる子も，すぐに笑顔で話していてびっくりした。年齢も近いので緊張感なくすぐにうちとけたのかもしれない。
☆ひとりずつ手をつないで案内してもらったので，迷う子もなく安心して楽しめた。
☆今後もこのように交流会によんでもらい，多くの経験ができるとありがたい。

（10）【12 月】白熱！リレーあそび（1 年生と 5 歳児）＜体育＞　〔小学校〕

1 月の交流前に少しでもなかよくなっておこうと，隣接保育所の 5 歳児とリレーあそびをした。運動会のリレーで接戦をくりひろげていた 5 歳児は，やる気に満ちた表情でやってきた。その後ろからは乳児たちの応援団が登場した。体操のあとチームで自己紹介，誕生月順の並びかえでは 1 年生が 5 歳児にやさしく尋ねながら進め，応援団の歓声につつまれてリレーとドッジボールを満喫した。幼小合同の新鮮さもあり，「ゆっくり走ったほうがいいかな」「軽く投げたほうがいいかな」と言っていた 1 年生もいざ始まると全力で真剣勝負だったが，ボールを 5 歳児に渡したりさりげなくいっしょに逃げたりする姿があった。

1 年生が普段 6 年生から感じるやさしさが自然につながり，1 年生とは初対面だが小学校には何度も来ている 5 歳児は最初からリラックスした雰囲気で自然にとけこみ，小学校への段差がひとつずつ確実にうまっていた。

1 年生のふりかえり

○リレーは速い人がいっぱいですごかった。いい１日が楽しめて最高だった。小学校は楽しいところなのでまたきてくれたらうれしい。
○幼児さんに，おもしろいことや楽しいことなどいろいろなことを教えてもらった。ほんとうにありがとう。
○保育所の子とあそぶことがすきになった。たくさんお友だちができて，もっとあそびたかった。
○幼児さんが，「今日あそんでくれてありがとう」と言ってくれて，おたがいになかよくなることができた。
○「足が速いね」と言ってくれて，うれしい気もちになった。幼児さんもドッジボールが上手で，ぼくももっとうまくなりたい。来年が楽しみになった。12 月のなかで今日がいちばん楽しかった。

幼児教育施設より

☆グループで自己紹介したり誕生月で並んだり，自然と言葉でかかわることができてよかった。
☆運動会を経験したあとでドッジボールも盛んに取り組んでいたので，喜んで無理なく楽しむことができた。
☆交流後の中間休みも保育所の子がいても自然とうけいれてくれる雰囲気が子どもたちにとって居心地がよく，入学に向けての安心にもつながると思った。

（11）【12 月】歓喜！クリスマス交流（5 年生と全園児）＜家庭＞　〔A 保育所〕

クリスマスが近づいてきた 12 月，家庭科の学習で「サンタクロース・トナカイ・ゆきだるま」の指人形をつくり，隣接保育所を訪問した。5 歳児とは交流を重ねていたが，園への初訪問に少し緊張した表情でリコーダー演奏しながら各保育室に入った。こころのこもった個性あふれる指人形のプレゼントは大好評で，乳幼児たちが迷いながらじっくり選び，指にはめて笑顔で見せあう姿をみて喜びをかみしめていた。保育体験は，保育士のあたたかいサポートや乳幼児の様子などから学び多い貴重な時間となった。

苦手な裁縫に一生懸命取り組んだが喜んでもらえる自信がなかった児童が，喜びを素直に表現する乳幼児の反応に，学習を他者とのかかわりにつなげたことで得た大切な気づきを次の学びへ生かそうとする姿につながった。

5 年生のふりかえり

○指人形がかわいくて笑顔だともらった子も笑顔になると思ってつくった。乳幼児さんがさわってもとれないよう頑丈につけた。
○たくさん乳幼児さんがいるなかで，みんなをみて世話をする保育士さんはすごいと思った。でも笑顔で心がやすらぐから大変なだけではないと思った。みんな一人ひとりちがうから，それを保育士さんがきちんと見極めて対応していることに気づいた。
○保育士さんが，みんなが楽しめるように工夫して，みんな自然と笑顔になっていた。次は自分たちでみんなを笑顔にしていきたい。そのためには自分から笑顔になるなど，今日保育士さんから学んだことを生かしていきたい。
○ぼくの失敗した指人形も大切に受けとってくれて，とても反応がよかった。
○自分が心をひらくと乳幼児さんも心をひらいてくれるので，自分から笑顔で話しかけるといいと思った。
○「もし自分が相手だったら…」と考えて笑顔で接することができた。将来の夢は保育士なので，とてもいい仕事だと思った。
○子どもは少し苦手だったけれど，５年生になっていろいろな乳幼児さんと会い，子どもたちに会える時間が少しずつ楽しくなっていった。来年も楽しみだ。

幼児教育施設より

☆みんなとてもやさしく親切に接してくれた。2 歳児と手をつないだとき，こわれものを扱うかのようにそろりそろりと歩いてかわいかった。
☆リコーダーをふきながら登場したり，リクエストした曲を即興でふいてくれたりして，すごいなぁと子どもたちもみていた。
☆指人形で家でも喜んであそんでいると連絡ノートに書いてあった。

（12）【12 月】温和！クリスマス交流（6 年生と全園児）＜家庭＞　〔B・C 保育園〕

5 年生同様，家庭科の学習で指人形をつくり，校区の保育園を訪問した。手作りの指人形は大好評で，喜びと自信と満足感で満ちた 6 年生は「園でみんなで使ってください」と自分

用もプレゼントしていた。園全体の歓迎ムードにだんだんと緊張の表情もやわらぎ，保育体験では，自分自身の過去や未来の姿とも重ね合わせながら乳幼児や保育士からさまざまなことを感じとっていた。「ありがとう」「またいつでも来てね」とあたたかく見送られ，「かわいいしか言えない」「1 日中いたい」「癒される」「何でもするからまた来たい」と，最高学年で休み時間も大忙しの 6 年生にとってほっとこころ和むひとときになったようだ。

交流経験がある幼児にとっては「園に来てもらえる」という興奮や期待，初めての乳幼児にとっては緊張や戸惑いのなかで，6 年生のおもいがつまった指人形を通し，全園児・保育士と 6 年生のこころがつながった。

6年生のふりかえり

○作るときは正直めんどくさいなぁと思っていたが，あんなに喜んでくれ，すごくうれしくて，作ってよかった。
○いつも家でゲームばかりしているが，乳幼児さんとあそんで楽しかった。
○交流して赤ちゃんの気もちが少しわかった気がした。わたしたちにもこんな時期があったと思うととてもなつかしかった。
○保育士が２番目の夢になった。人と接することの大切さや，やさしくすることのすばらしさを学んだ。
○幼児さんがみせてくれた合奏はみんながんばっていてぐっときた。小学校が楽しみになったと言っていてとてもよかった。わたしは比較的子どもが好きなタイプだが，交流でもっと好きになった。
○自分たちがあそんでもらっている感覚になった。おわかれのとき２歳児からハグをしにきてくれた。ほれた！
○「バアッ」としたときのみんなの笑顔が忘れられない。とても幸せな時間で，最近忙しいのでとても癒された。
○帰るとき「なんで帰るの？」「また来る？」「給食いっしょに食べない？」などと言ってくれ，わたしたちは園児さんの大切な存在になっていたと気づいた。わたしも帰りたくなかった。思い出いっぱいの交流になった。
○乳幼児さんたちの貴重な時間をいただいてあそべることはめったにないので，すごく感謝している。
○だっこさせてもらったとき，重くても５kg くらいの軽さで，よくそんなに小さい体のなかに，あそんで，泣いて，走り回る元気があるなと思った。最近，虐待などのニュースがよくあるけれど，必死で生きている小さな命を，大人や兄姉の手で傷つけるなど，本当にやってはいけないと改めて感じた。

幼児教育施設より

☆交流のことを伝えると，「いつ来るの？」「まだ？」ととても心待ちにしていた。普段接することのない６年生との交流は園児にとって大変よい経験だった。
☆手作りの指人形はどの年齢の子もとても喜んでいて，６年生が帰ったあともよくあそび，お迎えのときに保護者にみせる姿もあり，大切に持ち帰っていた。次の日，指人形のそりをつくってきた子もいた。
☆まだまだ初めての人には慣れず，警戒している子も多いが，乳児にあわせて積極的にかかわってくれたので，すぐにうちとけ，楽しい時間になったと思う。
☆６年生がやさしく声をかけてくれ，丁寧にかかわろうとしている気もちが園児たちにも伝わっていたと感じる。保育士からみても微笑ましい姿だった。
☆普段の生活のなかでのかかわりで，自然で，楽しくすごすことができた。
☆「互恵」の精神，伝承していきたいものである。

（13）【1 月】希望！もうすぐ 1 年生体験入学（1 年生と 5 歳児）＜国語・生活・音楽＞　〔小学校〕

もうすぐ 1 年生になる 5 歳児が学習体験を行った。もうすぐ 2 年生になる 1 年生は，1 年前の自分と重ねてなつかしさを感じながらペアの 5 歳児を自分の席に案内して横にしゃがみ，目線をあわせて話しかけていた。そして読みきかせをする 1 年生と絵本の世界を楽しむ 5 歳児の表情はそれぞれ真剣で，読み終わると満足した笑顔をみせあい，教科書をみたりランリックを背負ったりとそれぞれのペースですごした。休み時間は 5 年生とドッジボールや遊具などすきなあそびを楽しんで教室に戻り，5 歳児は 1 年生が書いたお手本をみて名前を練習しながら学習の雰囲気をあじわい，1 年生はあたたかく見守った。

ペアでじっくりとかかわる時間，自由に小学校ですごす時間，慣れ親しんだ 5 年生とほっとする時間，席で“学習”する時間など，さまざまな場面を通し，今回もまた 5 歳児にとって小学校への安心や期待につながった。保育士にとっても小学校全体の雰囲気から新たな気づきがあり，双方の教育や子どもに対する認識や理解も進んだ。

1年生のふりかえり

○読書のときは本を自分の方向にして読んでいたけれど，人のほうにみせて読むと大変だった。いっぱい読み聞かせの宿題をしたかいがあったなと思った。読みおわったとき，ペアの子が笑っていて自分もうれしかった。
○鉛筆をちゃんと持ってとてもきれいな字を書いていた。１年生でどんな字が書けるか楽しみ。
○自己紹介で名前を教えていると，ニコッて笑ってくれてうれしかった。名前を真剣に書いていて小学生になったらきれいな字が書けたらいいなと思った。入学を楽しみにしていてほしい。
○ランリックを背負わせてあげると，にっこり笑っていて，とてもうれしそうだった。「１年生になることを楽しみにしてもらうことができたかな」と思った。またいっしょにいろいろしたい。
○疲れたし，楽しかったし，忙しかった。でも，もっといっしょにいたかった。
○「上手だね」などやさしく言うことが難しかった。今日は疲れたけれど最後までがんばったよ。

幼児教育施設より

☆１年生は自分たちがめんどうをみるという気もちがしっかりあり，リードしたりフォローしたりしてくれ，字を書くときも「書き順が違うけれど，ま，いっか。うん上手上手」などとほめながら進めたりいっしょに喜んでくれたりしていた。
☆何度か行っているので楽しみにして小学校に向かった。中間休みに５年生とあそべることも楽しみにしていた。休み時間は５年生が一人残らず連れだしてくれ，さびしそうにしている子やひとりぼっちの子がおらず，安心して任せられた。いつも感謝している。
☆就学前の期待も高まっているときで，ワクワクドキドキの気もちで参加し，「楽しかった！」と終わることができ，とてもよかった。

（14）【2 月】感動！図工展見学（4 年生と 4 歳児）＜図工＞　〔小学校〕

他学年の交流の様子をみながら待ち続けた 4 年生，ついに交流の日がやってきた。全校児童の版画が壁面いっぱいに飾られた体育館で「どれがみたい」「気になるものある」とペアの 4 歳児に声をかけながらまわった。いつの間にかうちとけ，「お兄ちゃん・お姉ちゃん」と笑顔で慕ってくる 4 歳児に，おもわず「だっこしていいかな」という声がもれ，保育士の許可を得てだっこした瞬間，4 歳児・4 年生・保育士にこの日最高の笑顔がこぼれた。時間がきてもつないだ手はなかなか離れず，名残惜しそうにそのまま校舎のまわりを一周し，門に着いたときはおたがいの距離はさらに近づき，姿がみえなくなるまで手をふっていた。

インフルエンザ等も心配される時期だが，高学年前の 4 年生と年長前の 4 歳児，おたがいに適切な時期でもあった。計画をたてるにあたり，それぞれふさわしい時期にねらいをもってかかわることも大切な視点であった。

4年生のふりかえり

○頑張って版画を完成させたのでみてもらうことが楽しみだった。会うまでとても緊張していたが幼児さんが入ってくると楽しそうで和んだ。
○最初は話すことがなく不安になったけれど，途中からいろいろきいてくれて興味をもってくれたようでうれしかった。
○ペアの子は２年生の作品にいちばん興味をもっていた。ぼくも初めてみたとき，２年生の作品が迫力があったので，ペアの子の気もちがとてもわかった。笑顔もみせてくれるようになって，すっかり心をひらいてくれたと思う。
○「だっこして」と言ってくれたり，手をにぎってくれたりして，気にいってもらえてうれしかった。
○わたしは小さい子がだいすきだけれど，少し強い言いかたをしてしまうこともあるので，これを機会にやさしくなっていくことができたらと思った。またこういう機会があれば，幼児さんの気もちを考えてやさしく接したい。
○次に小学校にきたとき，ぼくたちとあそんだことを思い出してほしい。保育園の時間をけずって来てくれてありがとう。
○ぼくの２年後は６年生，幼児さんの２年後は１年生，その姿をみてみたい。２年後待っているよ。

幼児教育施設より

☆体育館に着くと小学生たちが迎えにきて，あいさつしてもらえたので，すっと入っていくことができた。
☆丁寧に作品の説明をしてくれるなどやさしく接してもらい，とても喜んでいた。
☆いろいろな版画がおもしろかったようで，子どもどうしで話していた。家でも，とても楽しかったと話していたそうだ。
☆とてもいい経験になった。４歳児もこのような機会をもっともてたらうれしい。

（15）【1・2月】伝承！昔あそび交流（レクリエーションクラブと5歳児）＜クラブ活動＞　〔A保育所〕

前年度のふりかえりで，伝承遊びをしたいと要望があった。そこで，クラブで昔あそびを企画した児童が隣接保育所を訪れ，午睡がなくなった5歳児と昔あそびを楽しんだ。いつもと異なる静かな雰囲気に，5歳児以外は昼寝中であると察した児童はそっと部屋に向かった。5歳児はそれぞれ興味あるあそびを選び，得意な技を披露したり，小学生に教わったり，新しいあそびかたを生み出したりと，和やかな雰囲気で午後のひとときをともにした。児童の得意なあそびと幼児が希望するあそびが一致するとは限らない状況で，異年齢だからこその楽しさやかかわりそのものを楽しむ姿があった。

児童のふりかえり
○なかなかない貴重な経験で楽しかった。わたしも羽子板は初めてで新鮮だった。いっしょにあそんでくれてありがとう。
○思ったよりもおもしろかった。みんな元気いっぱいで，元気をくれて，太陽のような存在だった。楽しい時間をありがとう。
○保育士さんも，ひとりひとりへの接しかたを変えるなど，いろいろな工夫をしてかかわっていることがわかった。
○これまで年齢が違う人にはあまり話しかけなかった自分が幼児さんに話しかけたり声をかけたりできていて，そんな自分にびっくりしている。幼児さんの明るい感じや笑顔で話しかけてくれるおかげだと思う。交流で身につけたやさしい心を6年生とのかかわりでも生かすことができたらなと思う。

幼児教育施設より
☆小学生にリードしてもらい，楽しめるよい機会だった。
☆たくさんの道具を持ってきてくれて，目移りするほどだった。
☆30 分程度の時間は集中してあそべるちょうどよい時間だった。

（16）【後期】感謝！12歳のハローワーク（6年生と全園児）　〔A保育所〕

休み時間に数人ずつ，隣接保育所の園庭で乳幼児とふれあった。特に乳児とかかわる経験は少なく戸惑いもあるなかで，目線をあわせて穏やかな口調で話しかけ，あそびをいっしょに楽しんだ。幼い頃をなつかしくふりかえってかかわりかたを試行錯誤し，自分の新たな一面に気づいたり，保育士の仕事の大変さとともにやりがいを感じとったりするなど，自身の過去・現在・未来を考えるきっかけにもなった。発達段階に応じたねらいやかかわりかたについてのアドバイスもあり，教職員としても参考になった。

6年生のふりかえり
○交流の日はわくわくして，「今日はどんな子かな」「何をしてあそびたいかな」などと，相手のことを考えるようになった。
○乳幼児さんの感じていることや考えていることにふれることができ，乳幼児さんからいろいろ教わり，ぼくたちも成長できた。
○乳幼児さんの目線にあわせて話すと積極的に話してくれた。小さい子は自分から心をひらいてくれると思っていたが，こちらから心をひらかないといけないと思った。乳幼児さんだけでなく，仲よく信頼していたら笑顔をみせたり話をきいてくれたりするので，誰にでも信頼してもらえる人になりたい。
○いろいろな子がいて，それぞれ違う接しかたをしなければいけないことが大変だった。でも小さな子を前よりもっとすきになった。
○たった15分だがとても疲れた。でも「お姉ちゃん！」と言ってくるところがかわいくて疲れがふきとんだ。来てよかったと思った。
○何度も交流して不安はなくなり楽しみにしている。帰るときは，帰ってほしくないことが伝わり，自分が必要とされていることにとても感激した。とてもかわいくて天使のようだ。
○泣いている子を抱くと全身で泣いていることを感じた。よく転び，よく泣く，それって人生を必死に生きているのではないかと思った。ストレスや泣きたい気もちを外にだすことはすごい自己アピールで小さいころには必須と本で読んだ。これからも元気に生きてほしい。
○交流をして，命の大切さがよくわかり，乳幼児さんの生き生きした姿やほほえましい笑顔が心に残った。自分もこのように支えられていたと思うと，ものすごくありがたいことで，このように命はつながれているのだと思った。
○先生に「かかわりかたがじょうずだね」と言われ，自分のよさに気づいた。小さいとき自由にあそばせてもらっていたことを思い出した。「大変だからしない」ではなく「子どものために頑張る」気もちを感じ，もっともっと保育士さんを尊敬しないとなと思った。
○幸せな気もちになった。小さい子と交流するコツを少しつかみ，今後もっと地域の人や幼児さんと交流できることが本当に楽しみ。
○自分ではどうしていいかわからず友達と必死だったが，保育士さんはひとりで泣きやませ，自分にはできない技術だと思った。保育士さんは小さい子に本当に愛されていて，そして常に愛される努力をしていることが一目でわかった。わたしも努力しないといけないと思った。
○前までは子どもがあまり好きではなかったが，かわいいと思えるようになり，今では将来の夢トップ10に保育士が入る。特に2・3歳は好奇心旺盛で大変なことも多く，難しい面もあるが，楽しい面もあると実感した。
○交流は楽しく，支えてくださった保育士のみなさんに感謝している。保育士という夢への思いが交流したことでさらに強くなった。

幼児教育施設より
☆普段おとなしい子が，積極的に6年生とかかわっていてびっくりした。ちがう一面もみられ，だっこしてもらってうれしそうだった。
☆何もお願いしていないのに，一対一で手をつないでペースを合わせて歩いて園舎まで送ってくれる姿に，ほのぼのしながら感心していた。乳児も緊張しているけれどついていって，泣かなくて意外だった。
☆いつもあっという間。おたがいの時間制限もあるなかで，この時間を上手に活用してもらえたら…。
☆保育士もねらいをもって今日の姿をイメージしながら，それぞれとかかわってすごしているので，それぞれがしていることをいっしょにするような自然なかたちでかかわってくれる子がいてありがたい。

（17）【通年】平穏！図書室利用・休み時間あそび（5歳児）　＜小学校＞

年間を通し，幼児が交流や図書室利用で小学校に来たときは運動場であそんだり散策したりして帰った。だんだんと小学校に幼児がいることが自然になり，幼児はすきな場所でリラックスして自由にすごし，教職員や小学生と声をかけあう場面もみられた。また，授業中と休み時間の学校全体の雰囲気のちがいを感じとり，チャイムが鳴ると小学生の流れにのり自然と集合場所に戻る姿もみられるなど，幼児にとって小学生や小学校がより身近な存在となっていった。

3．2020年度の新入児(2019年度5歳児)の様子

2019年度半ば頃，5歳児担任が，「小学校には絶対に行きたくない」と4月から不安を強く感じていた幼児が，交流を重ねるにつれて「早く小学校に行きたい」と入学を楽しみにするようになっていったと語ることがあった。そして2020年度の入学式では，保護者と離れる際も大きな不安をみせる様子はなく，「あれ，みたことがある先生」などと言いながら自ら校舎に入っていく新入児が多く，就学前の交流の際に使用していた靴箱にまっすぐ向かって靴を入れようとする新入児もいた。トイレと教室もひとりで往復し，教室では近くの席の新入児どうしで会話がはずみ，新しい環境では緊張が高まりやすいと心配されていた新入児も積極的に担任にも話しかけていた。

感染症の影響で翌日から約2ヶ月休校となり，例年とは異なる状況での単純な比較は難しいが，高まっていた期待や意欲は消えることなく，再開後の適応も早く，前年度の連携活動の効果も少なからずあったと推測される。

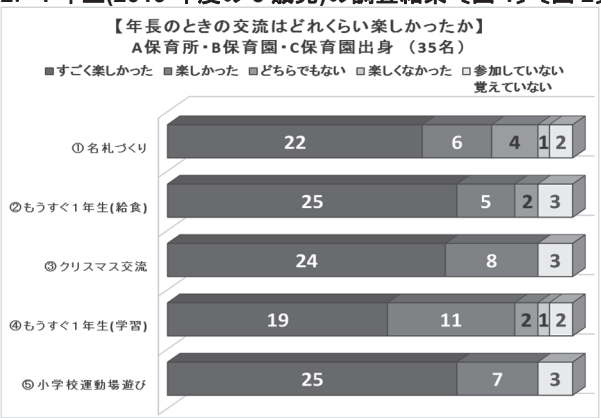
Ⅲ．１年生・６年生へのアンケート調査(2021 年 3 月)

1. 調査の概要

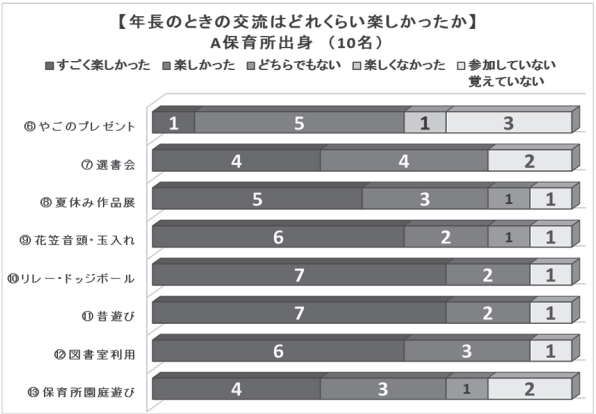
2021 年 3 月，1 年生全 85 名のうち前年度に連携活動を実施した校区内保育所・園出身 35 名，6 年生全 72 名を対象にアンケート調査を実施した。1 年生は各交流活動について写真を示してやりとりしながらふりかえり，5 年生は事前に写真を廊下に掲示したうえで，参加した 5 つの交流活動についてどれくらい楽しいと感じたか 5 段階で回答を求めた。A 保育所出身 1 年生 10 名には，A 保育所とのみ実施した 8 つの交流活動についても，同様に尋ねた。さらに，6 年生 72 名には，各交流活動が 6 年生になって 1 年生とのかかわりにどれくらい役にたったと感じているかについても 5 段階で回答を求め，どのように生かされたかについては記述で回答を求めた。

なお，それぞれ「参加していない・覚えていない」の回答の多くは，欠席もしくは途中転入の児童であった。

2. 1 年生(2019 年度の 5 歳児)の調査結果〔図 1〕〔図 2〕



〔図 1〕交流はどれくらい楽しかったか（1 年生 35 名）

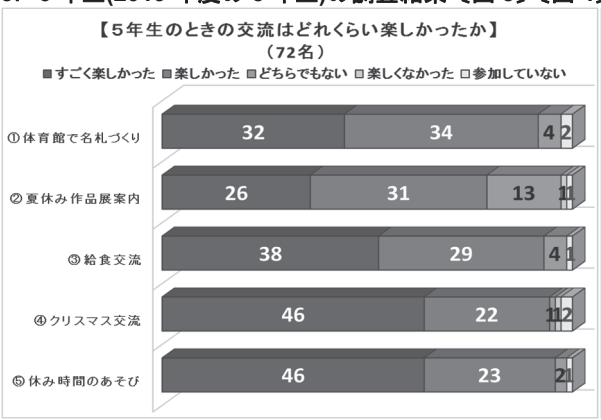


〔図 2〕交流はどれくらい楽しかったか（1 年生 10 名）

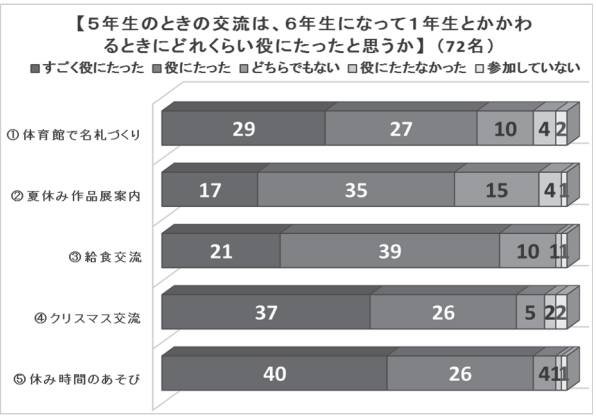
①～⑤のすべての項目においては，半数以上の児童が「すごく楽しかった」と回答している。なかでも①④のように内容が比較的決まっており，「教える／教えてもらう」という要素が多い活動よりも，②③⑤のように“自由度”が高く，“あそび”の要素が多く，“多様なコミュニケーション”が生まれる活動の満足度が高いことがわかる。②③⑤では「楽しくなかった」との回答はなく，③⑤は「どちらでもない」という回答もなかった。

⑥～⑬のうち，⑥⑦は初期に短時間または幼児のみで実施され，⑬は 5 歳児以外とのかかわりが多かったことから，「すごく楽しかった」いう印象が薄いことが推測される。それ以外の⑧～⑫は①～⑤と同様の傾向がみられ，加えて「経験したことがある」ことを小学生といっしょに楽しむ活動も満足度に影響すると考えられる。

3. 6 年生(2019 年度の 5 年生)の調査結果〔図 3〕〔図 4〕〔表 2〕



〔図 3〕交流はどれくらい楽しかったか（6 年生 72 名）



〔図 4〕交流はどれくらい役にたったか（6 年生 72 名）

③④⑤においては，半数以上の児童が「すごく楽しかった」と回答している。このことから，6 年生（当時 5 年生）においても，“自由度”と“多様なコミュニケーション”が満足度に影響をあたえているといえる。

一方で，どれくらい役にたったかについては「すごく楽しかった／すごく役にたった」の回答者数のみで比較すると，「すごく楽しかった」の割合は①よりも③のほうが高い結果に対し，「すごく役にたった」の割合は③よ

りも①のほうが高いことがわかる。これは，自由度の高さに加え，幼児の予測できない反応に対する柔軟な対応が多く求められる活動であったからではないかと推測される。幼児にわかりやすく伝えたり楽しい雰囲気をつくったりするために，かかわりを通して児童ひとりひとりが試行錯誤や工夫を積み重ね，自信や自己肯定感が高まっていったことで，6年生として1年生とかかわるうえで生かされたという実感につながったことが考えられる。

〔表２〕５年生のときの交流がどのように生かされたか（6年生 72名）

○会ったことがあるので少し気軽に話せ，名前を知っていた子は名前を呼べた。	○昨年の幼児さんとのおしゃべりを生かして1年生とも楽しくおしゃべりできた。
○かかわった子が覚えていてくれたり，自分が覚えていたりして，仲良くなれた。	○小さい子の考え方を理解することで，1年生とのかかわりかたに生かされた。
○入学前に交流をしていたことで知っている子もいたので話しやすかった。	○小さい子の体力や力がわかり，1年生と遊ぶときの力加減がわかった。
○自分からも1年生からも話しかけやすかったから，休み時間も交流できた。	○話すときにどのような言葉で話せばいいかしっかり知ることができた。
○5年生のときに話した子と6年生になったときにお話して，それが他の1年生とも仲良くなるときに生かされた。	○同級生と同じ接し方ではなく，とてもやさしくして，意見をきいてあげるなど，その1年生の気もちになって考えることができた。
○どのような遊びがどのように楽しくてよいのか，どのようなことが好きだったりするのかがわかって，考えやすく，かかわりやすかった。	○今自分に必要なものや，どうしたらわかりやすく伝わるのかなどを考えながら接することができた。
○「保育所の子どもたちはこういうものが好きだったからこういうものはどうだろう」などのアイディアがおもいつきやすくなった。	○1年生の目線で話すことができ，話を合わせることでたくさんの話ができた。
○泣いてしまっていたときの対応などに生かせた。	○小さい子がどんなふうに考えるかを予想しやすくなり，小さい子の立場になって相手の気もちを想像するということができるようになった。

Ⅳ．考察

1．互恵性を生みだす環境

（1）柔軟性と自由度

早い段階で活動の合間や活動後に小学校で自由にすごす時間を設定したことは各園に好評だった。小学校としても，自由度が高いことで児童からもさまざまなおもいが生まれ，主体性とともに関係性が深まり，人や場に対する安心感につながっていくことを実感していた。そこで，余白の時間が生まれるように活動内容にゆとりや柔軟性をもたせ，子どもたち自身が決める場面や自由時間を新たに設けるなど，徐々に自由度を高めていった。

自由度が高まるほど子どもたちの姿や感想などにも明らかな変化がみられ，それぞれが見通しや期待・やりがいをもち，自分なりの意味や希望・ねらいをもって取り組もうとする意欲が高まり，関係性もさらに深まったといえる。また，“自由度”がもたらす効果については，6年生へのアンケート調査によっても明らかとなった。

（2）全園児・全児童・全教職員による時間・空間の共有

年間を通し，活動内容やねらいに応じて柔軟に双方の場を行き来し，全園児・全児童・全教職員の交流の機会を生みだした。さらに，小学校の図書室や運動場などを園だけでも気軽に利用できるようにしていったことで，おたがいの様子が自然と目に入る機会も増え，同じ空間にいることが“特別”ではなくなっていった。

また，交流の最後は保育士からの一言があり，児童の安心感だけではなく，ほめられ感謝されることで小学生の自信・よろこびにもつながり，小学校教員にとっても話しかたや内容などから新たな視点や気づきがあった。これが“招待する／される”ではなく“いっしょに”学びをサポートしている雰囲気にもつながったといえる。

2．多様なつながり

（1）学びのつながりと互恵性

幼児教育と小学校教育をつなぐ視点はさまざまなところにあり，教科等の枠をこえて双方の学びは多様につながっている。“みる”“かかわる”ことで気づくこと，かかわってみなければ気づかないことも多い。また，直接かかわる場面に限らず，おたがいの様子や場をみて“感じる”こともある。まだまだおたがいに知らないこともたくさんあるなかで，“みる”“知る”“感じる”機会を生みだしながら，みえてくる共通点や学びのつながりを連携活動に生かしていくことで，交流の場での学びがそれぞれの場での学びへと生かされ，学びの循環が生まれる。

連携活動が「楽しかった」で終わらないように，子どももおとなも意義や価値を実感できるような環境を工夫し，普段の生活の自然な流れのなかでおたがいを行き来しながら，幼小全体での年間を通した無理のない交流の継続が，双方の教育活動のあらゆる面にプラスの効果をもたらす。そして，連携活動が双方の教育にとって“互恵性”をもたらすという実感をそれぞれの教職員が重ねることで，交流の事前・事後活動やそれぞれの日々の教育活動における“学びのつながり”を意識した実践や交流への意欲の高まりにつながっていくと考えられる。

（2）人（幼児・小学生・教職員）のつながりと関係性の深まり

連携活動を通し，幼児にとって経験の場がひろがり，小学生や小学校へのあこがれや安心感にもつながった。小学生にとっても，幼児に慕われ認められ必要とされることで目的意識や自己存在感・自己肯定感が高まり，自

分の幼児期をふりかえって自身の成長や周囲の人々のおもいなどに改めて気づき，自己をみつめなおすよい機会となった。さらに，自分の言動や行動が他者の喜びや笑顔につながることを感じて他者のためにもっと何かしたいと次につなげたり，保育士の姿に尊敬の念を抱いて未来の自分のありかたを考えたりすることにもつながった。

各発達段階において，空間・時間の共有によって生まれる相互作用を通してさまざまな刺激をうけ，他者とかかわる楽しさや気もちがつながるよろこびを感じ，自己・他者理解や多様な関係性が学びとともに深まっていく。交流をきっかけにおとなどうしも知り合い，“知っている関係”から“話せる関係”へと深まり，おたがいの教育や子どもたちの発達・成長について実感をともなった理解の促進や新たな視点の獲得にもつながると考えられる。

（3）翌年度へのつながり

連携活動を通し，幼児にとって小学生や小学校が身近な存在となり，「知っている」人や場所が増えることで，より安心・安定した状態での入学につながった。連携園出身以外の新入児にとっても，連携園出身の新入児の様子から安心感が生まれ，全体的にリラックスした雰囲気での小学校生活のスタートにつながったと推測される。さらに，“きょうだい学級”として頻繁にかかわる 1・6 年生の関係が前年度からできていたことで，少しでもおたがいを知っているという気もちのゆとりが，年間を通した積極的なかかわりや安心感にもつながったといえる。

すべての小学生にとっても，交流活動を通してかかわった幼児の入学や成長を楽しみにしたり，進級後の自分自身について考えたり見通しをもったりするなど，年度をこえたさまざまなつながりをもたらすと考えられる。

Ⅴ．今後の展望

コーディネーター的存在として各園を訪ね，短時間でも直接顔を合わせる機会を増やすことで，交流でかかわった保育士以外にも“外部の来客”から“小学校の先生”と顔を見て認識されるようになり，さらに名前を呼びあう関係になり，園からも活動の提案・要望など気軽に話しやすい雰囲気が生まれた。また，「あっ小学校の先生」「何しに来たの」「今度いつ行くの」「小学生は今何しているの」と声をかけてくる幼児も増えた。連携活動は子ども・おとなが知り合い，存在を身近に感じる機会となるだけでなく，継続的な交流やふりかえり等を通してそれぞれの場での学びへとつながり，互恵性・充実度が高まるとともに，縦横の多様な関係性が深まっていく。

今後も，それぞれの視点からのふりかえりが次につながり生かされていくように，さまざまな声を積極的にきき，日程や内容等は柔軟に変更・調整しながら，相互理解を深めるとともに共通認識を高めていきたい。そして，幼小すべての子ども・おとなの多様な“つながり”を意識した“互恵性”のある連携を通し，縦横のあらゆるつながりをさらに見出し，双方の視点を生かした幼小連携・接続カリキュラムの充実をはかりながら，他校区にもひろめていきたい。そのためにも，交流活動の内容・年間計画への位置づけを全教職員で検討していくとともに，縦横の多様な関係性をつなぐコーディネーター的存在として連携担当の役割を明確にしていくことが望まれる。

【引用・参考文献】

1）住野好久(2006)「幼小連携における「交流活動」の意義と実践課題」岡山大学教育実践総合センター紀要 6(1), 101-110

2）齋藤政子(2008)「保幼小連携において異年齢児が交流する意義 - 幼小連携教育の実践を通してみたコミュニケーション力の育ち－』明星大学教育学研究紀要 (23), 55-66

3）善野八千子(2015)「人間教育に資する「幼小接続期カリキュラム」のあり方－「とまどいマトリクス」を活用した接続カリキュラムの改善－」人間教育学研究 (3), 39-49

4）数馬彩香・西館有沙・若山育代(2018)「幼小接続における幼児と小学生の交流活動の現状と課題」富山大学人間発達科学部紀要 13(1), 59-66

文部科学省(2018)『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総則編』東洋館出版社

文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〈平成 30 年 3 月〉』フレーベル館